



CORPORATE  
PROFILE

農事組合法人 香花園

本社：香川県高松市塩江町安原下558  
tel.087-897-0478  
資本金：2,400万円  
従業員数：25名(平成18年5月現在)

昭和49年、塩江町に設立されたカーネーション専門農場。当時としては珍しい機械化された大型温室で、カーネーションの安定生産と品質改良、新しい栽培技術の確立を目指して発足した。養液栽培、湿式輸送(バケツ流通)など先端技術を導入し、日本のカーネーション栽培をリードする農場として注目される。現在は3農家の共同経営で、約5,000坪の敷地で約1,000種類を試作、切り花27種を出荷している。

佳亮 3年の時に1年間休学して、オ

うですね。 Q 佳亮さんは留学経験があまりだそ

うですね。 佳亮 海外でいろんな人に会えたのは貴重な経験。日本語は通じないし、英語もちよつと...というところで暮らしていると、さまざまな考え方の人がいるとい

うのがよく分かりました。 光裕 留学してから、ものの考え方ができつつあると思いますね。 佳亮 海外でいろんな人に会えたのは貴重な経験。日本語は通じないし、英語もちよつと...というところで暮らしていると、さまざまな考え方の人がいるとい

うのがよく分かりました。 光裕 留学してから、ものの考え方ができつつあると思いますね。 佳亮 海外でいろんな人に会えたのは貴重な経験。日本語は通じないし、英語もちよつと...というところで暮らしていると、さまざまな考え方の人がいるとい

うのがよく分かりました。 光裕 留学してから、ものの考え方ができつつあると思いますね。 佳亮 海外でいろんな人に会えたのは貴重な経験。日本語は通じないし、英語もちよつと...というところで暮らしていると、さまざまな考え方の人がいるとい



大きい花を作るため、つぼみを間引きしています。

うのがよく分かりました。 光裕 留学してから、ものの考え方ができつつあると思いますね。 佳亮 海外でいろんな人に会えたのは貴重な経験。日本語は通じないし、英語もちよつと...というところで暮らしていると、さまざまな考え方の人がいるとい

うのがよく分かりました。 光裕 留学してから、ものの考え方ができつつあると思いますね。 佳亮 海外でいろんな人に会えたのは貴重な経験。日本語は通じないし、英語もちよつと...というところで暮らしていると、さまざまな考え方の人がいるとい



このカーネーションが全国に、そして世界に出荷されます。

うのがよく分かりました。 光裕 留学してから、ものの考え方ができつつあると思いますね。 佳亮 海外でいろんな人に会えたのは貴重な経験。日本語は通じないし、英語もちよつと...というところで暮らしていると、さまざまな考え方の人がいるとい



母の日の直前には出荷作業のピークを迎えます。



真鍋 佳亮

PROFILE

まなべ よしあき  
平成17年、香川大学  
農学部花卉研究室卒業

真鍋 光裕

PROFILE

まなべ みつひろ  
農事組合法人「香花園」代表理事。  
日本を代表するカーネーション生産者の一人。  
昭和49年、香川大学農学部花卉研究室卒業

親子二代農学部  
カーネーション作りで  
世界市場に挑む。

高松市郊外の塩江で、日本有数のカーネーション専門農場「香花園」を営んでおられる真鍋さん親子。おじいさまも学部は違えど香大のご出身です。世界を視野に入れたカーネーション生産のお話を伺いました。

Q おじいさま、お父さまも香大のご出身。佳亮さんの進路に影響はありましたか？

佳亮 香花園ができたのは僕が生まれる前で、常にカーネーションが身近にある生活でしたから、わりと自然に進路は決まりました。

光裕 農学部へ行くと勧めたわけではないんですが...

ランダ人が運営するポルトガルの花卉農場と、ブラジルの農場、スペインの種苗会社に研修に行きました。向こうは農場の規模がデカイです。オランダは賃金が高いので、人件費を抑えるために機械化できることはどんどん機械化している点などが、参考になりました。

Q 親子で同じ仕事をされているメリットとは？

光裕 私が学生だった30年前より時代の流れが速く、流通範囲も広くなりました。今は市場が日本全国から、さらに世界に広がっています。それだけ国際的に競争も激しくなっているということ

で、価格や品種改良、出荷体制など、競争力をつけないと生き抜けません。農業の後継者不足と言われる中、うちのようには後継者がいると安心ですし、仕事について親子で対等に話ができるのはいいですね。

Q 農学部のキャンパスライフはいかがでしたか？

佳亮 花卉研究室はチームワークが良かったです。農学部の中で一番仲がいいかも。

光裕 花卉研究室の仲がいいのは伝統かな。私が学生の時も、よく先輩や後輩の研究を手伝ったりしましたし。他県出身者が多かったですが、同じ職業の人がほとんどなので今でも交流はあります。先生も近くにいらっしゃるので何かあればすぐアドバイスがもらえるし、将来のことを考えたら地元つながりがある農学部は便利と言えます。